

29 危険物施設

【関連章第7章12】

事例2 「一般取扱所のごみ処理施設から火災」

出火時分 11月 12時ごろ
用途等 ごみ処理場 耐火造 6/0 延 14,700 m²
選解任 該当选任あり 危険物保安監督者
被害状況 建物ぼや1棟、ごみ若干、ベルトコンベヤ約 10m 焼損
概要

この火災は、ごみ処理施設のベルトコンベヤから出火したものです。

出火原因は、不燃ごみの中に紛れていたリチウムイオン電池が破碎工程等で変形したことにより、内部の絶縁構造が壊れ短絡状態となり発熱、発火し、周囲のプラスチックごみに着火し出火したものです。

自動火災報知設備の鳴動を聞いた施設職員は、ベルトコンベヤ部分の赤くなった天板を確認すると、内部で延焼しているのを発見したため、中央制御室に無線報告を行い、火災の知らせを聞いた中央制御室の職員は固定電話で119番通報をしています。

火災を発見した施設職員は屋内消火栓設備により初期消火を行い、また、中央制御室では散水設備を手動で作動し、延焼拡大防止措置をしています。

教訓等

消防法上の危険物や指定可燃物に該当する品名・数量を取り扱う施設では、火災が発生した場合に延焼が拡大したり、深刻な被害が発生する場合があります。

この火災では、不燃ごみの中にリチウムイオン電池が紛れていたため火災となっています。リチウムイオン電池はほかの一般的な電池と比べて、高容量、高出力となっており、火災の契機となった場合に周囲に可燃物があれば、延焼が拡大する危険性が高くなっています。

このような火災を防ぐために、家庭でのごみの分別を徹底し、廃棄する際には各自治体が指定した回収方法で適切に処分しましょう。

また、リチウムイオン電池等の小型充電式電池は、家電量販店などのリサイクル協力店で回収していますので、ご活用ください。



写真 29-3 施設職員による初期消火状況



写真 29-4 火源となったリチウムイオン電池



リサイクル協力店の最新情報は、一般社団法人 JBRC の HP でご確認ください